



VMware Cloud Director App Launchpad 2.0 リリースノート

VMware Cloud Director App Launchpad 2.0 | 2020 年 10 月 15 日 | ビルド 17029135

このリリースノートの追加事項や更新事項を確認してください。

リリース ノートの概要

このリリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [新機能](#)
- [アップグレード](#)
- [サポートされるブラウザ](#)
- [製品ドキュメント](#)
- [既知の問題](#)

新機能

App Launchpad 2.0 には、次の新機能が導入されています。

- **コンテナ アプリケーションのサポート**
 - 仮想マシン アプリケーションに加えて、App Launchpad 2.0 は Helm Chart から App Launchpad カタログにコンテナ アプリケーションを表示できます。
 - App Launchpad を使用すると、テナント ユーザーは Helm Chart から Kubernetes クラスタにコンテナ アプリケーションを起動できます。起動すると、ユーザーは App Launchpad の [マイ アプリケーション] ページからの IP アドレスを使用して、実行中のコンテナ アプリケーションにアクセスできます。「[コンテナ アプリケーションの起動](#)」を参照してください。この機能を使用するには、*VMware Cloud Director Container Service Extension*、*VMware vSphere with VMware Tanzu* によって Kubernetes クラスタを管理する必要があります。
 - サービス プロバイダは、Helm Chart が保存されているリポジトリに App Launchpad を接続することによって、App Launchpad に Helm Chart を追加します。「[Helm Chart リポジトリからのアプリケーションの追加](#)」を参照してください。
 - ユーザーは、起動プロセス中にアプリケーションの YAML ファイルを編集できます。Helm Chart リポジトリで、フォーム フィールドに表示されるパラメータが定義されている場合は、起動プロセス中にフォームが表示され、ユーザーはアプリケーションを起動する前にパラメータを編集できます。
- **VMware Cloud Marketplace との連携**
 - App Launchpad 2.0 では VMware Cloud Marketplace に接続する機能が導入されています。「[VMware Cloud Marketplace からアプリケーションを追加する](#)」を参照してください。
 - VMware Cloud Marketplace から App Launchpad へは、仮想マシン アプリケーションをサブスクライブしたり、コンテナ アプリケーションをプルしたりすることができます。
 - VMware Cloud Marketplace の自動同期機能は App Launchpad から制御できます。この機能は、仮想マシン アプリケーションの新しいバージョンが VMware Cloud Marketplace で使用可能になると、それを自動的にプルします。

- App Launchpad では、自動同期機能を使用して VMware Cloud Marketplace から新しいバージョンが取得されるときに、仮想マシン アプリケーションの古いバージョンを自動的に削除する機能が導入されています。
- カスタム アプリケーションのサポートの強化
 - サービス プロバイダは、URL を指定して、App Launchpad にカスタム アプリケーションをインポートできます。
 - サービス プロバイダは、仮想マシン アプリケーションのロゴ、テキストの概要、バージョン番号、OS、カテゴリ タグをカスタマイズできます。「[アプリケーションの編集](#)」を参照してください。
- アプリケーション管理の機能強化
 - サービス プロバイダはカテゴリを定義し、カタログの管理に役立つカテゴリにアプリケーションを追加できます。
 - サービス プロバイダは、アプリケーションのグローバルなカスタム情報を追加できます。
 - アプリケーションを編集するときに、サービス プロバイダはリッチ コンテンツ形式を使用できます。
 - テナント ユーザーは、アプリケーション マーケットプレイスのタイプでアプリケーションをフィルタし、仮想マシンまたはコンテナ アプリケーションを選択できます。
 - テナント ユーザーは、NSX-T によってバックアップされたルーティング ネットワークに仮想マシン アプリケーションを展開できます。
- 公開 API
 - App Launchpad 2.0 では、テナントとサービス プロバイダのほとんどの機能をプログラムで利用するために使用できる公開 API が導入されています。<https://code.vmware.com/apis/1036/cloud-director-app-launchpad> を参照してください。

アップグレード

バージョン 1.0 から App Launchpad 2.0 にアップグレードできます。「[App Launchpad のアップグレード](#)」を参照してください。

サポートされるブラウザ

App Launchpad は、次のブラウザの最新および以前のメジャー リリースと互換性があります。

- Google Chrome
- Mozilla Firefox
- Microsoft Edge
- Microsoft Internet Explorer 11

備考：App Launchpad にアクセスするには、VMware Cloud Director サービス プロバイダの管理者およびテナントポータルを使用します。App Launchpad でサポートされる Web ブラウザは、実行する VMware Cloud Director のバージョンによって異なります。

製品ドキュメント

現在のリリース ノートに加えて、<https://docs.vmware.com/jp/VMware-Cloud-Director-App-Launchpad/index.html> の *App Launchpad* のドキュメントを参照できます。

既知の問題

- OVF アプリケーションをカタログにインポートするとエラーで失敗する

OVF アプリケーションをカタログにインポートしようとする、次のエラーが表示されてプロセスが失敗します。

```
InvalidAlgorithmParameterException: the trustAnchors parameter must be non-empty
```

1. App Launchpad サーバに root または sudo ユーザーとしてログインします。
2. ローカル ホスト ファイルに移動し、`${public-cloud-director-FQDN}` の新しいホスト マッピングを `${internal-cloud-director-IP}` に追加します。
3. パラメータ `--url` でパブリック VMware Cloud Director の FQDN を指定するには、コマンド `alp connect` を再度実行します。
4. コマンド `systemctl restart alp` を実行して、App Launchpad サービスを停止します。

- App Launchpad が AMQP SSL ポートを介して VMware Cloud Director バージョン 10.3 以降に接続できない

VMware Cloud Director 10.3 以降で RabbitMQ SSL ポートを使用して拡張性を構成すると、AMQP SSL ポートを介した App Launchpad と VMware Cloud Director との間の接続が失敗します。

回避策：

1. App Launchpad サーバ マシンに移動し、ファイル `/etc/ALPEnvironments.` を開きます。
2. 次のキーの値を `true` に変更して保存します。

```
alp.vcd-endpoint.amqp-accept-all-ssl=true
alp.vcd-endpoint.amqp-use-ssl=true
```

3. `systemctl restart alp` コマンドを使用して、App Launchpad を再起動します。
または、非 SSL ポートを使用して VMware Cloud Director の拡張性を構成することもできます。

- Bitnami 仮想マシン アプリケーションが、VMware Marketplace からインポートされた後、[不明] の状態になる。

サービス プロバイダがカタログから新しいアプリケーションをインポートしようとする、アプリケーションは一貫して [不明] の状態になります。

回避策：

1. VMware Cloud Director プロバイダ ポータルを開きます。
2. [リソース] をクリックして、組織 AppLaunchpad のテナント ポータルを開きます。
3. [ライブラリ] をクリックします。
4. [カタログ] をクリックし、vApp のインポート元となるカタログを選択します。
5. [すべてのアクション] をクリックし、[サブスクリプション設定] をクリックして、[外部カタログからコンテンツを自動的にダウンロード] オプションを有効にします。
6. [保存] をクリックし、カタログを選択して [同期] をクリックします。
しばらくしてから、VMware Cloud Director と VMware Marketplace との間でアプリケーションのステータスが同期されます。

- 新しい Bitnami 仮想マシン アプリケーションが VMware Marketplace から正常にインポートされない

Bitnami 仮想マシン アプリケーションを VMware Marketplace から複数の VMware Cloud Director サイトにインポートし、カタログの選択で同じ名前のカタログを選択または作成すると、インポートは失敗します。

回避策：異なる VMware Cloud Director サイトでは、アプリケーションのインポート中に異なるカタログ名を使用します。

- コンテナを起動するときに、VMware Cloud Director 10.3 で作成された Kubernetes クラスタを一覧表示できない

App Launchpad でコンテナを起動し、VMware Cloud Director 10.3 を実行している場合、ドロップダウンメニューに Kubernetes クラスタが表示されません。VMware Cloud Director 10.3 にアップグレードする前に作成された Kubernetes クラスタは影響を受けません。

回避策：なし。

- App Launchpad を VMware Cloud Director 10.3 に再インストールまたはアップグレードできない既存の App Launchpad インスタンスを再インストールまたは VMware Cloud Director 10.3 にアップグレードしようとする、プロセスの診断手順中に次のエラーが発生します。

```
can't find the upload link in the response header to upload when installing plugin!
```

回避策：

1. VMware Cloud Director プロバイダ ポータルの Customize Portal プラグインから App Launchpad UI プラグインをアンインストールします。
 2. App Launchpad のインストールを再度実行します。
- VMware Cloud Director 10.2.2 以降を使用している場合、コンテナ アプリケーションをデプロイするときに、VMware Tanzu Kubernetes Grid のクラスタが使用できなくなる。
テナント ユーザーが Tanzu Kubernetes Grid インスタンスのクラスタにコンテナ アプリケーションをデプロイしようすると、クラスタのステータスが[使用不可]になり、ユーザーはクラスタをデプロイターゲットとして使用できなくなります。

回避策：この問題を回避するには、VMware NSX-T Data Center の Edge Gateway を使用して DNAT ルールを追加し、App Launchpad サーバが Tanzu Kubernetes Grid クラスタのプライマリ ノードにアクセスできるようにします。[[Tanzu Kubernetes クラスタ内のサービスへの外部アクセスの構成](#)]を参照してください。

- FAILED_CREATION ステータスのアプリケーションを削除しようすると、次のエラー メッセージが表示されて失敗する。

```
Failed to retrieve the subscription details.
```

この問題は、アプリケーションが VMware Marketplace と同期していない場合に発生します。

回避策：この問題を回避するには、手動でアプリケーションを VMware Marketplace と同期します。

1. VMware Cloud Director サービス プロバイダの管理ポータルで、テナント ポータルの「AppLaunchpad」組織を開きます。
 2. [ライブラリ] > [vApp テンプレート] の順に移動し、アプリケーションを選択して、[同期] をクリックします。
- 組織の 1000 番目のページを超えるページに表示されている組織にカタログを公開しようとする、次のエラーが表示されて失敗する。

```
Invalid organization IDs
```

回避策：この問題を回避するには、VMware Cloud Director サービス プロバイダ ポータルを使用して、組織にカタログを公開します。

1. VMware Cloud Director サービス プロバイダの管理ポータルで、テナント ポータルの「AppLaunchpad」組織を開きます。
 2. [ライブラリ] > [カタログ] の順に移動し、カタログの横にある縦の省略符号アイコンをクリックして、[共有] をクリックします。
 3. [組織] タブで、カタログを公開する組織を選択し、[保存] をクリックします。
- VMware Cloud Director の公開アドレスの末尾にスラッシュを入力すると、App Launchpad の構成に失敗することがある

VMware Cloud Director を使用して App Launchpad を構成するには、alp connect スクリプトを実行します。

このスクリプトを実行するときに、VMware Cloud Director インスタンスの公開 URL を `--url` 引数の値として指定します。

アドレスの末尾にスラッシュが付けた URL を入力すると、コマンドが失敗します。

回避策：`alp connect` スクリプトを実行するときに、URL の末尾にスラッシュを入力しないようにします。たとえば、「`https://cloud.example.com/`」の代わりに「`https://cloud.example.com`」と入力します。

- 次のエラー メッセージが表示されて、App Launchpad の構成が失敗する

```
Can't find vCD user by alp
```

App Launchpad を構成するには、`alp connect` スクリプトを実行します。このスクリプトによって、**App-Launchpad-Service** アカウントが、個々の VMware Cloud Director システム組織に作成されます。サービスアカウント名は、`--sa-user` 引数の値で指定します。指定したサービス アカウントが VMware Cloud Director システム組織に存在する場合、操作は失敗し、エラー メッセージが返されます。

回避策：この問題を回避するには、次の 2 つの方法があります。

- VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用して、**App-Launchpad-Service** アカウントとして指定するユーザーを削除します。
- `alp connect` スクリプトを実行するときに、`--sa-user` 引数値に存在しないアカウント名を入力します。スクリプトによって、自動的にアカウントが作成されます。

- デプロイ先のマシンに Java SE JDK 11 がインストールされている場合、App Launchpad のインストールは次のエラー メッセージで失敗する

```
error: Failed dependencies:
```

```
java >= 1.8.0 is needed by vmware-alp-2.0.0-38709533.x86_64
```

回避策：この問題を回避するには、インストール スクリプトに「`--nodeps`」引数を追加します。たとえば、ターゲット マシンに App Launchpad をインストールするには、「`rpm -ivh --nodeps vmware-vcd-alp-v.v.v-nnnnnnnn.e17.x86_64.rpm`」コマンドを実行します。「[App Launchpad のインストール](#)」を参照してください。

- LDAP または SAML を使用する VMware Cloud Director のユーザーは、App Launchpad を使用できない

LDAP または SAML を使用して VMware Cloud Director に対して認証を行うユーザーは、App Launchpad プラグインを開くことができません。App Launchpad プラグインにアクセスしようとすると、システムは「403 権限が拒否されました」のエラー メッセージを返します。

回避策：この問題を回避するには、SAML または LDAP ユーザーを再度インポートして、ロールを明示的に割り当てます。ロールの割り当ては ID プロバイダに延期しないでください。詳細については、『VMware Cloud Director テナント ポータル ガイド』の「[ユーザーのインポート](#)」を参照してください。

- VMware Cloud Director の複数のインスタンスが単一の RabbitMQ 仮想ホスト (vhost) に接続されている場合、App Launchpad 操作がランダムに失敗する

インストールと構成中に、App Launchpad は VMware Cloud Director への拡張サービスとして登録されます。単一の仮想ホストで VMware Cloud Director と App Launchpad の複数のインスタンスを構成すると、要求が誤った App Launchpad インスタンスにルーティングされることがあります。

回避策：この問題を回避するには VMware Cloud Director のインスタンスごとに専用の RabbitMQ 仮想ホストを構成します。

- テナントユーザーは、ルーティングされた組織仮想データセンター (VDC) ネットワークを使用してクラスタが構成されている場合、VMware Cloud Director の Container Service 拡張機能によって作成された Kubernetes クラスタにコンテナ アプリケーションをデプロイできない。

Kubernetes クラスタは、ルーティングされた組織 VDC ネットワークからプライベート IP アドレスを取得し、App Launchpad にアクセスできません。

回避策：この問題を回避するには、次の 2 つの方法があります。

- App Launchpad にアクセス可能な直接ネットワークに Kubernetes クラスタをデプロイする。
- Kubernetes クラスタのプライベート IP アドレスへのアクセスを可能にするネットワークに App Launchpad をデプロイする。

- アプリケーションを起動すると、デプロイ操作が正常に完了しても、ワークロードの IP アドレスが表示されない。

VMware Cloud Marketplace からアプリケーションを起動すると、デプロイが正常に完了した後に、アプリケーションのタイルにワークロードの IP アドレスが表示されません。

回避策：この問題を回避するには、App Launchpad を再起動します。

- App Launchpad にアプリケーションを追加するときに、次のエラー メッセージが表示されて、操作が失敗する

```
Cannot log into organization AppLaunchpad beacuse it has not been assigned rights.
```

このエラーは、VMware Marketplace からアプリケーションをインポートするとき、またはカスタム アプリケーションをアップロードするときに発生する場合があります。

回避策：この問題を回避するには、適切な VMware Cloud Director 権限バンドルを *AppLaunchpad* 組織に割り当てます。

1. システム管理者として VMware Cloud Director プロバイダ ポータルにログインします。
2. [管理] > [権限バンドル] の順に移動します。
3. [デフォルト権限バンドル] をクリックし、[公開] をクリックします。
4. [AppLaunchpad] 組織を選択し、[保存] をクリックします。

タスクの公開が正常に完了したら、VMware Marketplace からアプリケーションをインポートし、カスタム アプリケーションをアップロードできます。